



17・18の2日間にわたり、学校茶摘みを実施しました。この体験活動は西尾市の市制70周年よりもさらに前から実施されており、今回85回目を迎える西尾市の伝統的な学校行事です。きっと保護者の中にも思い出に残っている人が多いのではないのでしょうか。

学習指導要領の特別活動の指導内容には、「勤労生産・奉



仕的行事」の位置づけがあり、茶摘みの目的は、この勤労の尊さや生産の喜びを味わうとともに、西尾市の茶業を実際に学び、郷土産業への理解を深めることもねらっています。

コロナ禍の影響や手摘みの減少などに伴い、どの学校も実施日数を減らしています。本校では、3年のみ2日間で、1・2年は1日のみとしました。



東中の利点はなんといっても、東中校区の茶畑で摘む体験ができることです。茶園主さんの中には、学校茶摘み用のためのみに準備をしてくださっている方も見えます。

教職員でも初めての職員がおり、事前に指導できるように茶畑で体験したり、これまで積み上げてきた20ページ以上のマニュアルを使って学習会を開催したりして臨みました。

しかし、この2日間は想定を超えた記録的な暑さとなり、生徒の安全面を最優先に急遽対応の変更をしながら実施しました。

きっと生徒は「ああ、疲れたあー」とか「暑かったあ」と言って帰宅したことと思いますが、ぜひ、「よく頑張ったね」「いい体験したね」と認めてあげてください。一生忘れない思い出になったことと思います。

お弁当作りも大変だったと思います。いい顔をしていました。ありがとうございました。